

木造ホールでジャズCD収録

札幌出身ベーシストらデュオ

蘭越町に住む音楽好きが私財を投じて地元建てた音楽ホールがある。切り妻屋根の小さな「蘭越パームホール」。このホールの音響とたたずまいに惚れ込んだ札幌市出身の実力派ジャズベーシストの金澤英明さん(63)と若手ピアニスト栗林すみれさん(30)が、ここでアルバムを収録し、作品が発売された。



客席数約80席の蘭越パームホールと金子一憲さん＝いずれも蘭越町

蘭越の音楽愛好家ら手作り

透明な音響・静かな環境 作品に結実



アルバム収録に訪れた金澤さん(左)と栗林さん＝昨年11月

て異種交流の輪を広げることともホールを建てた目的のひとつだった。

金澤さんは、ジャズ界の渡辺貞夫さんや日野皓正さんらと活動してきた重鎮ベーシスト。2年前から栗林さんとデュオを組み、昨年4月、このホールで演奏会を開いた。2人は何も無い周囲の環境とホールに響く透明感あふれる音に感動。

これが縁となって昨年11月、「ロンドンデリー・エア」「ドリームズヴィル」など全11曲をCD「二重奏」(税別2500円)に収録した。

金澤さんは「木造ホールだからなのか私のコントラバス本来の音との相性が抜群によかった」。栗林さんは「静まりかえった空間の中、外の景色の感動が音楽に入ってきた。都会のスタジオではあり得ない刺激を受けた」と振り返った。

CD発売記念ツアーが3月から東京を皮切りに始まり、7〜8月に北海道でも予定している。

蘭越パームホールは、蘭越町のJR昆布駅に近い客席数約80席の小さな木造ホールだ。同町で衣料品店を営む金子一憲さん(73)が2003年、「好きな音楽家の生の演奏を聞きたい」と800万円を投じて仲間と手作りした。金子さんは「ライブでの音楽家の息づかいや聴衆との一体感など生演奏ならではの魅力を地元の人や子どもたちにも知ってほしかった」と語る。

今では年12回ほどクラシックやジャズ、シャンソン、オペラなどのコンサートを開いている。約7年前に立ち上げた「蘭越パームホール友の会」の会員は現在約150人。音楽を通し

(佐久間泰雄)